

治療最前線 乾癬

霞が関アーバンクリニック 皮膚科

乾癬は症状によって、**尋常性乾癬、乾癬性関節炎、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、滴状乾癬**の5つの病型に分類されます。

この病気の特徴的な皮膚の症状は、全身のどこにでもでますが、特に、肘、ひざ、腰まわりなどの擦れやすい場所や頭（頭皮）によくでます。また、からだが温まったときにかゆみが起こることがあります。

乾癬の特徴的な皮膚の症状がうつると思われがちですが、**他の人にうつることはありません。**

尋常性乾癬とは？

一般的にいわれている乾癬はこの病型をいいます。

症状は、全身の色々な場所に、様々な大きさ・数・形のくっきりと盛り上がった赤い発疹がでてきます。そして、皮膚に銀白色の粉がふいたような状態になって、フケのようにぼろぼろと剥がれ落ちるといった症状を繰り返します。また、爪にも、変形する、表面がはがれやすくなるなどの様々な症状がでてきます。

かゆみは約半分の方にみられますが、かゆみの程度はそれほど強くありません。

乾癬性関節炎とは？

乾癬性関節炎は、**腫れと痛みを伴う関節炎を合併した病型**です。

どの年代にも発症しますが、特に30代、40代の働き盛りの方に多く発症する傾向があります。

原因は不明ですが、この病型は、免疫異常から起こることがわかっていることから、関節リウマチに代表される**自己免疫疾患**の一つと考えられています。

症状は、乾癬の特徴的な皮膚の症状に加えて関節炎が起こります。関節炎は、各関節に腫れや痛みがでますが、特に、手足の同じ指の関節に腫れや痛みがでることが多く、ひどくなると1本の指全体がソーセージのように腫れてしまいます。このほかにアキレス腱などに起こる付着部炎、爪の症状など様々な症状があります。

この病型は、乾癬の特徴的な症状がない場合は診断に時間がかかることがあります。

膿疱性乾癬とは？

膿疱性乾癬は、乾癬に特徴的な症状と一緒に**膿疱（皮膚に膿がたまったもの）**がたくさんでてきます。この**膿疱は無菌**なので、他の人にうつることはありません。

症状は、発熱、全身の倦怠感、発疹、手足のむくみがある**重症な病型**です。この病型は、国の**指定難病**になっており、治療には入院が必要になることがあります。

乾癬性紅皮症とは？

乾癬に特徴的な皮膚の症状が全身に広がって、からだのほとんどが赤くなった状態を乾癬性紅皮症といいます。最初からこの症状がでることはとても稀で、ほとんどの場合、未治療、薬剤や感染症などの影響によって起こります。また、尋常性乾癬から感染性紅皮症に移行する確率が高いことが知られています。

滴状乾癬とは？

若い人に多い病型で、扁桃腺炎や風邪をひいたあとに、水滴が跳ねたような小さくて赤い発疹（紅斑）が急に全身にでます。

治療方法は？

病気の種類や症状の程度によって、ステロイドを含んだ塗り薬などの外用療法、内服療法、紫外線療法、生物学的製剤による抗体療法の4つの治療方法を組み合わせて治療を進めていきます。



日常生活の注意点

1. 寝不足や不規則な食生活にならないようにするなど、規則正しい生活を送るようにしましょう。



2. 入浴時に硬いタオルなどを使ってゴシゴシとからだをこするのは、症状を悪化させるのでよくありません。
また、入浴後等、からだが温まってくるとかゆみができることがあります。かきむしらないですぐに薬を塗るようにしましょう。

3. 細身のジーパンなどは、固い布が皮膚を擦ることから症状が悪化するのでお勧めしません。

4. カロリーの摂り過ぎに注意をして、バランスよく食事をするようにしましょう。特に、アルコール類や香辛料の強い食事は、からだを温まって痒みを引き起こすことがあるので摂りすぎないようにしましょう。

5. ストレスで症状が悪化することがあるので、ストレスをためないような工夫をしましょう。

6. なるべく日光浴をするように心掛けましょう。ただし、やりすぎは症状の悪化を招くことがあるので注意してください。

